

委員長退任のご挨拶

皆さま、こんにちは。いかがお過ごしでしょうか。テレワーク中心の生活様式にも幾分かは慣れ、充実した日々をお過ごしのことと拝察いたします。

本日は第 61 回土木計画学研究発表会にご参加いただきましてありがとうございます。今大会は委員会史上はじめて Web をつかったオンライン形式の研究発表会となりました。寺部委員長をはじめとする大会運営小委員会の皆さまの機転を利かせた柔軟な対応をいただきまして、伝統ある本研究発表会を今年も途切れることなく無事開催することができました。また、土井先生を筆頭に、大阪大学関係者の皆さまには、めまぐるしく状況が大きく変わる中、大会をいつ実施しても良いように万全の準備を進めていただいております。改めまして御礼申し上げます。

2 年前の 2018 年 6 月に当研究委員会の委員長を拝命した際、50 周年記念事業の提言に沿って色々やりたいことがありましたが、同年 7 月の西日本豪雨災害を皮切りに、北海道胆振東部地震、その後の関西、関東、九州地域の大型台風まで、度重なる自然被害が続き、さらにはこの度のコロナ感染症のパンデミックと、災害対応に追われた 2 年間でした。そう言えば 20 年以上前の 1999 年 9 月、土木学会全国大会が台風直撃で史上初めて中止となったとき、大会実行委員会の幹事長を務めていたのが私でした。どうも災害とは運命を感じます。

こうした大規模災害は無残な爪痕を残しますが、社会の価値観や慣習を変えるような契機になることも少なくありません。この度の COVID-19 について言えば、これまで私たちが交通需要マネジメントのメニューとして推進してきたリモートワークや時差出勤が現実的なオプションとして社会に定着しつつあります。大きな社会変革のなかで、土木計画学研究の力を発揮する局面が増えると期待しています。実際のところ、阪神淡路大震災から東日本大震災、熊本の経験を蓄積してゆくことで、防災・減災に向けた実践研究や政策提案が高度化し、その後の豪雨災害に活かされました。

さて、私が過去 2 年間で関わらせていただいた研究発表会は、2018 年度春大会の東京工業大学、同秋大会の大分大学、2019 年度春大会の名城大学、同秋大会の富山大学です。いずれも強く印象に残る大会でしたが、この間に、春大会と秋大会の機能入れ替え、論文集出版スケジュールの見直しなどがありました。そして、昨年度の秋大会（富山大会）では会場の分散開催の試みもいただきました。ポストコロナ時代に向けて、すでに持続可能な研究発表会の取り組みが始まっています。

最後になりましたが、後任の委員長には東京海洋大学の兵藤哲朗先生をお願いしております。兵藤先生は研究も教育も妥協せずきっちりとやられる方で、私が尊敬している研究者の一人です。また、当委員会の幹事長のご経験もあり、マネジメントの手腕も実証済みです。新しい委員長の下に、当委員会が益々発展することを祈念いたしております。2 年間、誠にありがとうございました。

2020 年 6 月 14 日

土木計画学研究員会委員長 藤原章正